

課題・研究期間・評価	<p>口蹄疫に係る埋却地周辺の環境に関する調査研究</p> <p>研究期間：H22～H24</p> <p>評価： 4（高く評価できる）</p>	意見 1	<p>・我が国における、大量家畜の埋却事例は本県のみであり、この調査研究で得られるデータは今後の家畜伝染病防疫対策に非常に重要かつ貴重なものとなる。きちんと検証し、他の研究機関等と協力して今後の対策の一助としていただきたい。</p>
		対応	<p>・埋却された家畜の死体は、土壌中の微生物により分解を受けるものと推察される。地下水汚染については、理化学的なデータ収集のみでなく、生物や細菌等の検査も行い、また、埋却地の臭気については経年変化を調査し、今後の対策に役立つ解析につなげたい。</p>
		意見 2	<p>・地下水汚染は、現象の進行が遅く、汚染が検出された後では対策が非常に困難になるという特性があり、現在設定している調査研究期間では、不十分であり、第一期目の調査研究として認識すべきであると考えます。</p> <p>また、汚染状況の検出に遺漏がないように観測網を設定するには、地下水の流れの方向を十分慎重に観測井戸を設定して調査することが最も重要である。</p>
		対応	<p>・埋却地周辺の環境に関する調査研究は、当面3年間取り組み、状況に応じて継続して調査研究を行う。</p> <p>・地下水汚染の調査は、埋却地との地理的な位置関係や地下水利用状況を踏まえて、当面既存の井戸を対象として調査する。観測井戸の設定等に関しては、他機関が行う調査研究と情報を共有しながら取り組んでいく。</p>